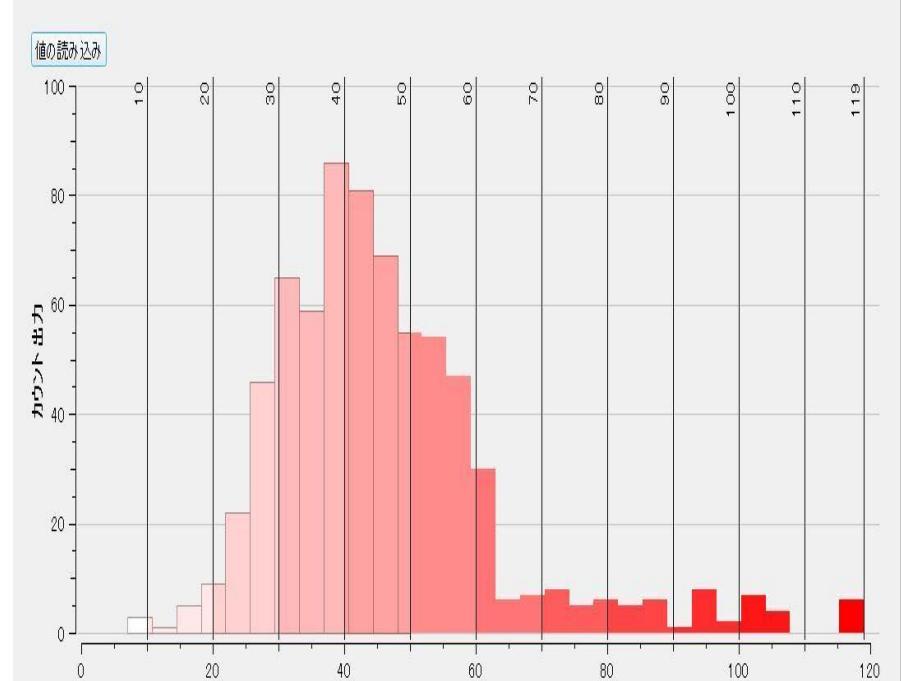
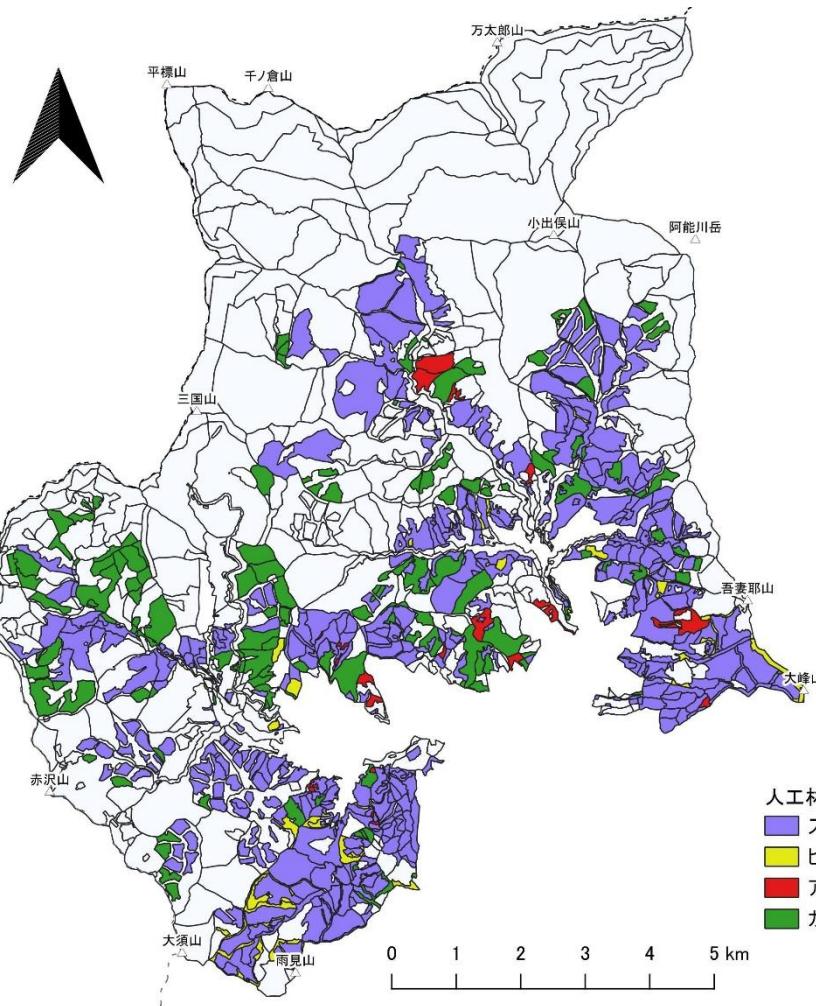


# 自然林の復元（ネイチャーポジティブ）

増やしすぎた人工林を、本来その場所にあった自然の林へ



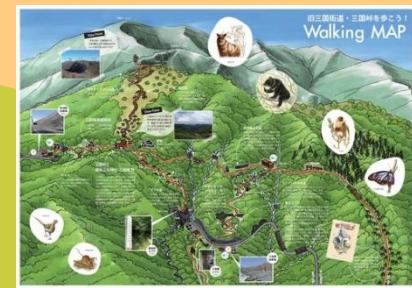
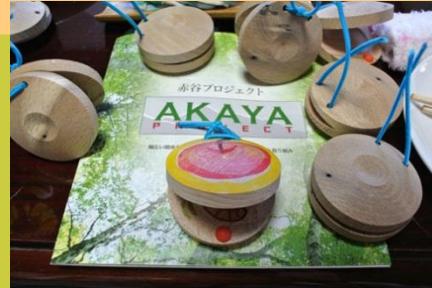
人工林の割合を現在3割→1割に減らす

# 赤谷プロジェクトの取り組み(ネイチャーポジティブ)

## A.生物多様性の復元



## B.持続的な地域づくり



## C.科学的な森の管理



## D.「国民の森」の管理 (赤谷プロジェクト) に参加する機会と仕組み

## E.科学的な成果や取り組み の波及・発信 (モデルプロジェクトとして)

# 種数の変化

生息地サービス

人工林から自然林への復元

スギ林

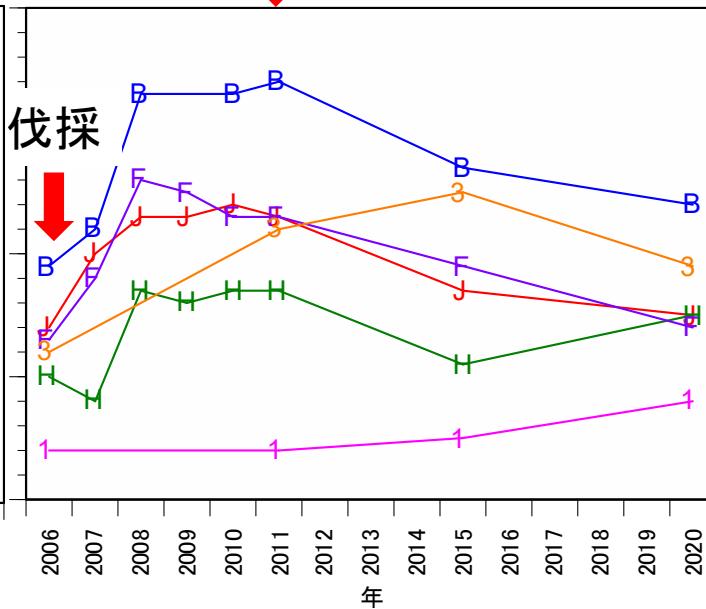
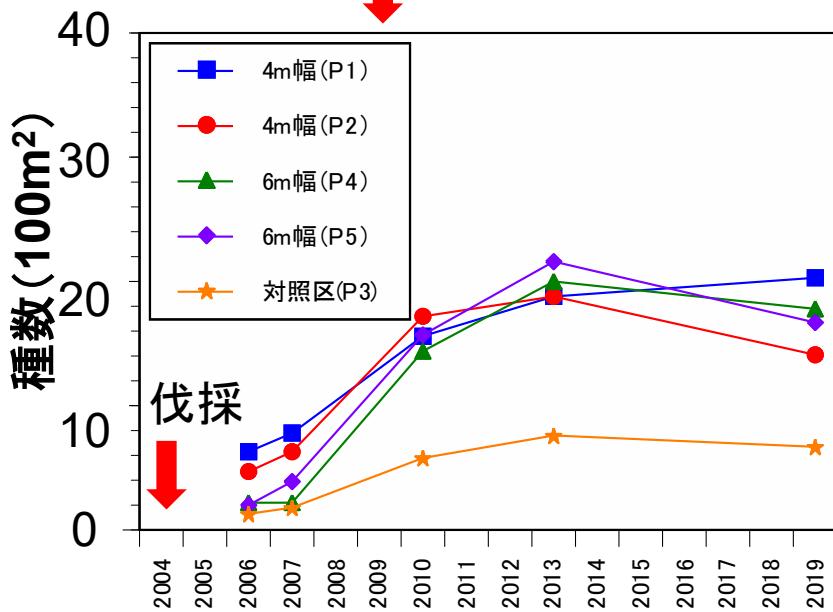
伐採後5年

間伐

カラマツ林

伐採後5年

帯状伐採  
複層伐



2004 → 2019 2006 → 2020  
年

# 森林の水源涵養能力の推定

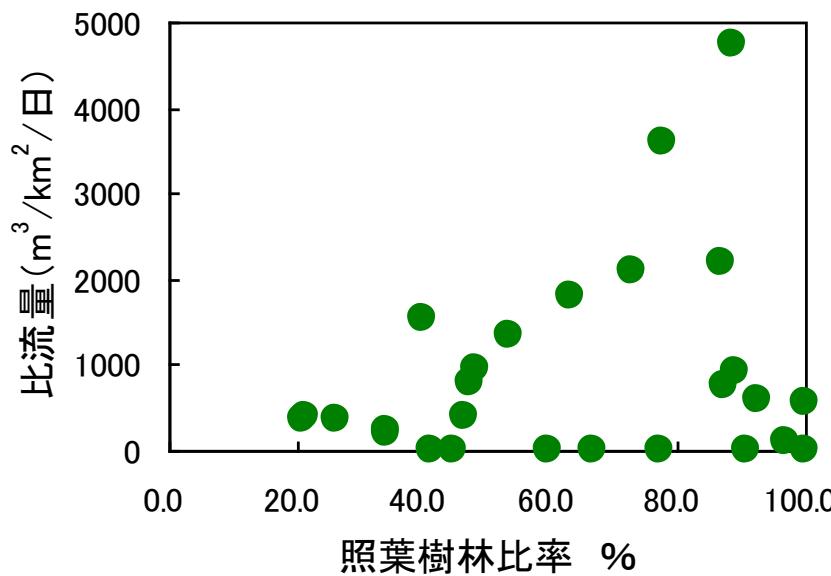


図1 綾南川および綾北川に注ぐ溪流の比流量と集水域の照葉樹林率  
(2006年11月23日、24日観測)

照葉樹林の割合が高い溪流ほど、流出水量が多い傾向を示唆する。  
人工林が多いほど出てくる水の量がない。

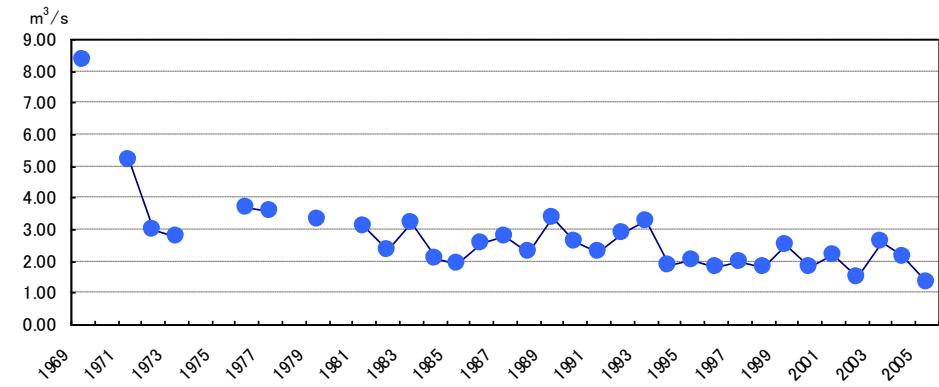


図2 綾南川の平水流量(185日水位)の経年変動  
(国土交通省 綾南橋観測所データを元に作成)

適度に流出

Hayashi et al. (2011) Hydrological Research Letters より改変

# 森林の更新に関する要因

## 更新制限要因

1. 伐採幅の違い(光制限)
2. 伐採木の処理方法(物理的阻害)
3. 自然林からの距離の違い(種子散布制限))
4. 人工林の履歴(1代目/2代目)の違い(更新素材不足、土壤劣化)
5. 広葉樹保残(更新補助、種子散布)
6. ササの有無(光制限など更新阻害)
7. 皆伐の際に生物多様性復元に配慮した伐採、再造林の方法  
(更新素材を保存する)
6. 針広混交林の取り扱い(不成績造林地、伐採方法)
7. 植栽や除伐による復元等における多様な主体の参画(更新補助作業)

## 指標

種数、個体数、幹数、胸高直径(DBH)、樹高、材積(BA)、RBA

# 復元を阻害する要因への対応

一斉林

